

月刊やちまなこ

2013.2.15 発行

No. 183

2 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



節分が過ぎ、太陽の輝きも徐々に増してきたようだ。川沿いのヤナギの枝には銀色の衣をまとった芽がいくつも見え、川面にその姿を映し出していた。1月には氷点下24～26を記録したが、今月に入り、まるで3月を思わせるような陽気を感じる日があり、「このまま春へ向かってほしい」といった願いも虚しく「あと何回除雪作業をするのか」という現実が待っている。



コッタロ川と湿原のほとりから

152 2月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“早春賦幽(かそけ)し風の嘆きかな”(駄作)。日脚が伸び日中の気温もようやく真冬日を脱しつつあり、そこはかとなく春の兆しを嗅ぎ出せる昨今です。ゆるみかけた寒気を知らせる濃霧が立ち込め、全山霧氷の花盛りとなったコッタロを御覧下さい。

さて、毎年繰り返されるこの時季の風物詩は見慣れているものの、2月9日が目安の『丹頂の子別れ騒動』ほど切なく又、やるせないものではありません。

一方、嬉しいハプニングもあって、珍しいミヤマホオジロが十数年ぶりに飛来し、雀等と群れていて危うく見逃すところでした。背後から見れば雀と何ら遜色がないこの個体は、黄色の冠羽がピンと立つ美しい野鳥で、せわしなく動き乍ら餌をついばんでおりました。

ところで庭にくる常連の中に尾羽の無い四十雀一羽が、霧氷の小枝で全身の羽毛を思いっきりふくらませて防寒対策に余念がなく、体の一部が抜け落ちた分を補っているようでしょう?それでも早いもので一週間足らずで尾羽が生えてきており一安心です。彼等を横目に見つつ、これまた毎日のクロカンスキーにうつつをぬかしていると、今季は大変良質な雪に恵まれているのに気付かされ、殆んど凸凹の無いゲレンデを歩いてなめらかに林中に入れば、眼下の湿原を蛇行する小川はすでに黒々とした流れで、水面には鴨類を遊ばせており、樹木には見事に芽吹きを待つ堅い新芽がびっしりついているではありませんか。もうすぐ春ですね!!



湿原の住人たち その143

タラノキ

日当たりの良い所に生える落葉低木のタラノキは、木の芽の山菜として人気が高く、タランボと呼ばれ親しまれています。ウド、エゾウコギ、ハリギリのように食用、薬用になるものが多いウコギ科の仲間です。夏から秋にかけて黄白色の花をたくさんつけます。黒紫色の実には、それを目当てに野鳥が訪れます。雪が多い今シーズン、センター周辺の散策路で見られるものは、林の縁という場所が悪かったのか、トゲが少ない幹が太めのもはエゾシカによる樹皮食いの被害にあっていました。枝の半周以上に巻き付いた葉っぱが落ちた跡は、ネックレスをつけているようにみえませんか？



ジョウビタキ

ツグミの仲間のジョウビタキは、全国に冬鳥として渡ってきますが、この辺りでは稀にしか見られません。写真は1月28日にサルボ展望台階段付近で羽を休めていた雌です。スズメと同じくらいの大きさで、雄も雌も翼の白い斑が目立ちます。雄は胸から腹、尾にかけてオレンジ色をしています。渡りの途中で寄ったまま、居ついてしまったわけではないと思いますが、どうぞお見知り置きください。

撮影：小林美保氏



ネムネムの塘路周辺うろうろ日記 Vol.41 「これは現実か？メルヘンか？」

2月16日に行なわれる郷土館講座「冬のいきもの観察&クッキーデコ体験会」の準備に追われています。午前中は観察会をし、午後はワシやシカのクッキーにチョコで色付けをして、動物の特徴をつかむという、超マニアックな内容です。でも午前中によく観察しないと、午後リアルなクッキーが作れないわけですから、ちゃんと学習効果を狙った真面目な企画です。

実は私の趣味がお菓子作りで、ある日ネットでドイツ製のワシのクッキー型を見つけ「これがあればオオワシとオジロワシ作れる！」一瞬でクッキーのデザインが浮かんでお買い上げ。早速作って、ワシが保護されている野生生物保護センターのスタッフにプレゼントしたところ、みんな面白がってくれました。

そこから思いがけず講座企画となりましたが、観察した動物のクッキーを作って、それを食べるってシュールだな～、という人もいます。この仕事をしていると、どうも生き物に対して現実的になり過ぎてメルヘンのかけらもない、普通の人々がドン引きしてしまうことをしでかすので、言動に気をつけないといけません。本当は汽車のクッキーも作って、野生動物の列車事故について説明しようと思いましたが、どうもヤバそうな空気だと自重しました。

辻 ねむ(標茶町郷土館学芸員)

2がつ 7にち

ばしょ くしろ(自宅で練習中)



大人の野鳥マニアもうならせる、ハイレベルな作品を目指していますが、どうなることやら…。

3月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

釧路湿原・散策と温泉

[日時] 3/2 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 10名、無料(入浴料は負担してください)

[場所] 蝶の森・シラルトロ湖周辺

* 雪積状況によってスノーシュー(貸出無料)を使用。防寒着、帽子、手袋、長靴。

申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

巣箱を作ろう

[日時] 3/10 (日) 13:00~15:00

申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(1/30)ヤチダモとカラコギカエデのタネ.カラフトイバラの実 (2/4)雪原に飛ばされたニセアカシアの実 (2/12)銀色に輝くヤナギの芽.キハダの実.

【鳥】(1/18)オオハクチョウ.タンチョウ.ホオジロガモ.ヒヨドリ.アカゲラ.ハシブトガラ.シジュウカラ.ゴジュウカラ (1/20)ノスリ (1/23)ツグミ (1/28)ジョウビタキ (1/30)オオタカの羽.ベニマシコ.ワタリガラス (2/2)オジロワシ.オオワシ (2/8)ウソ.(ミヤマ)カケス (2/10)マガモ (2/13)カワアイサ.(シマ)エナガ

【その他】(1/19)スズメバチの古巣.SL冬の湿原号.エゾリスとヤチネズミの足跡 (1/20)エゾシカ (1/28)キタキツネ (1/29)フロストフラワー (2/2)放射霧.ウグイ.アメマス (2/8)氷紋 (2/13)エゾモモンガの糞.エゾユキウサギの足跡

引き換えはお済みですか？

「生物多様性」に関心をもってもらい、「自然とのふれあい」を広げていく、「国立公園」「野生生物」に親んでもらうことを目的に、2010年7月からスタートした「全国自然いきものめぐりスタンプラリー」が3月31日で終了します。スタンプが3コ、5コ、10コで記念品の引き換えができますが、お済みでない方はお早めにお越しください。

日出・日入時間 2/15(6:20,16:53) . 2/28(6:01,17:10) . 3/14(5:37,17:27)



ワカサギ

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料